

## 一 般 質 問 通 告 表

平成24年第2回始良市議会定例会（6月19日（火） 午前9時開会）

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
1. 堂森 忠夫	1. 加治木港周辺の活性化について	<p>（1）県道加治木港線沿いの警察関係は、平成26年度には全て移転となる。</p> <p>交通安全協会の理事会で、協会財産でもある交通安全協会の建物を、構造体は丈夫で今後も使用可能であるので市に無償譲渡してはどうかとの話しがでている。市は無償譲渡を受け、土地込み民間企業へ払い下げることはいかないか。その施策の方が周辺活性化の対策としては貢献できるとの声があるが市の対応を問う。</p>	市長
1. 堂森 忠夫		<p>（2）県道加治木港線の歩道は、市民が港まで朝夕の散歩道として利用が多い。また、港を利用する大型ダンプ等の通行も頻繁である。</p> <p>今後、港の良さを最大に活かすためには港までの歩道整備延長を施し、市民が安心して安全・快適に通行できる整備等に取り組めないか問う。</p> <p>（3）港町・黒川線沿いの企業が規模縮小等で工場を解体して空き地の状態だ。市は企業に対して時代に適した支援策を考えているのか。</p> <p>また、周辺市民から空き地の状態であるので、今、企業に相談して一部を歩道に確保するなど、新たな周辺活性化の声に応えられないか問う。</p> <p>（4）円高経済は、地球規模で人・物が動き雇用の場を確保する時代へ突入した。</p> <p>今後の経済は輸入増が予想される</p>	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
1. 堂森 忠夫	2. 道路拡幅の陳情と整備について	<p>が、県央の港を活かした物流拠点のミニ貿易港として整備できないか。また、港周辺の空き地を冷凍食品など各種の倉庫関連の業務を扱う企業誘致を提案するが、どのように対応する考えか問う。</p> <p>(1) 合併して3年目がスタートし市民の陳情等にもスムーズに对应えられる業務運営が整ってきたと察する。</p> <p>加治木地区の隈原上自治会が、市道拡幅等の整備において、路肩の崩壊で車の通行不能が予想されるので、地区住民が用地を無償で市に譲渡し、早急な工事着工を求める陳情書を提出したが、いつ頃に実施可能か不安だ。陳情に対しての回答を文章で对应されないかとの声があるが、どう対応するか。</p> <p>(2) 永原・市野線は長年にかけて改良工事がなされてきたが、辺川 299 番地（大宮路宅）の前、幅員は7mあるが、その先で長さ約 40mだけは急に狭く幅員は3、4mしかない状態である。この部分の路肩が浸食谷の方へ崩壊すると、辺川地区幹線道路の市野線は通行止めとなる恐れがある。</p> <p>計画的に周囲の地権者と交渉するなどして、道路拡幅の整備等の実施計画を立てられないか問う。</p> <p>(3) 県道十三谷・重富線で始良ニュータウン入口付近の交差点付近の拡幅工事は、明るい兆しがあった交渉時から、前進しない状況にあると聞けるが、お互いの立場に傾聴し紐を解く思いで冷静に对应することが無難だ。</p> <p>市長は前向きに取り組んでおられる</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
1. 堂森 忠夫	3. 鳥獣類の被害について	<p>が、周辺の自動車整備工場の移転が可能であるかがポイントではないか。また、移転先が自動車整備工場の許可申請等の手続きがクリアできるかがカギである。</p> <p>この2つの課題をクリアする取組みに努める態勢が整っているのか問う。</p> <p>県と連携し近年は鳥獣類の被害防止対策には行政も力をいれるようになった。</p> <p>猿が食を求め生きようとする世界は、人間より賢い分野があり無断で畑に入り農村地区を荒らし、農産物を収穫する前に、美味しい部分だけを食べて掘り起こし、農民は収穫収入を得られない日々を過ごしている。</p> <p>猿と喧嘩しても逃げ足が速く勝てないので、追い払い術も良いが、荒らされて収穫できなかった差額は、市で農産物被害補償が可能な条例整備をし、農家の人々に対して元気と希望を与えられるような市政運営を提案するが、どのように捉え農村の声に応えるか。</p>	市長        市長
	4. 本道原地区の整備について	<p>(1) この地区は市水道施設がなく不便な状態であるが、近年は各種の企業が事業所を置き、車や家電等の廃品リサイクル業務を営んでいる企業もある。</p> <p>市民からこの地区で火事が発生したら、水が不足し消火活動ができるのか心配しているが、市はどのような対策を考えているか。</p> <p>(2) この地区を通る県道・隼人加治</p>	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		<p>木線は空港への利用者が多い道路であるが、山の峰を通り細長い台地の地形であるので、大雨など自然災害等の発生を未然に防ぐ工夫と整備が必要だ。そのためには雨水や家庭排水等のインフラ整備が重要であると察するが、その対策等を整えての企業誘致を行うのか、その対応を問う。</p>	
2. 森川 和美	1. 人件費について	<p>(1) 旧3町の時の状況からどのように調整したか。</p> <p>(2) 給与体系の格差が生じてはいないか。</p> <p>(3) 人件費の抑制をどのように考えるか。</p>	市長
2. 森川 和美	2. イオンタウン(株)大型店誘致、進出について	<p>(1) 選定理由の中で、本市の地域経済活性化に寄与すると、行政報告であった。どれくらいの経済効果と、どのような地域経済活性化に寄与すると考えているか。</p> <p>(2) 事業用定期借地協定書の内容を示せ。</p> <p>(3) 企業誘致と土地利用対策について、企画部と市土地開発公社どちらが主体となるのか。</p>	市長
	3. 職員の勤務実態について	<p>平成23年第1回定例会の一般質問で、職員の残業の問題、喫煙の問題について質問した。時間外勤務のその後の実態と時間外勤務手当の縮減について検討内容を示せ。</p> <p>また、喫煙時間設定については、市民の皆様の理解を得られる形での検討を行うとあったが、その検討内容も示</p>	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		せ。	
3. 東馬場 弘	<p>1. 学校給食の主食材料について</p> <p>2. 第3次実施計画と市道整備の進捗について</p>	<p>(1) 学校給食の主食はパンと米飯となっている。加治木地区の米飯給食は、安全・安心、地産地消として地元産の掛けぼし米である「田の神さあ米」を一部使用し、また、野菜・果物など市内で生産される農産物も積極的にメニューにとりいれており、子どもたちは給食を通して地域の農業について理解を深めつつある。</p> <p>給食パンも「田の神さあ米」同様に、地産地消及び消費拡大の一環として、現在少しずつではあるが拡大しつつある県産小麦を普及させるため、米飯給食との共存を念頭に食料自給率向上を促すためにも県産小麦を使ったパンを給食に導入できないか問う。</p> <p>(2) 始良市でも自給率向上、水稻の裏作や休耕地利用・遊休農地解消など県産小麦の普及拡大に取り組む考えはないか問う。</p> <p>(1) 平成24年度に策定する第3次実施計画で、3つの目的別に事業構想とその懸案事項（今後の予定と考え方）が示された。その中での企業誘致による事業の構想に近隣地域の区画整理事業も含めた総合的事業として取り組みを進めるべきであるが、その方向性を問う。</p> <p>(2) 市道中野線の拡幅事業については、地域住民の願いが非常に強く、交通量が意外と多いため、この地区の事故防止をはじめ、安全・安心、防犯等を考慮すると早急に取り組むべきだが進</p>	<p>市長 教育委員長</p> <p>市長 教育委員長</p> <p>市長</p> <p>市長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		<p>捗状況を問う。</p>	
4. 神村 次郎	1. くも合戦大会の 存続について	<p>くも合戦は、保存会が結成され大会が運営されている。</p> <p>近年コガネグモが減少し年々その採集が困難になりつつある。このままでは、大会の開催も懸念される。</p> <p>市としても存続のため支援の方策を検討すべきではないか。以下について問う。</p> <p>(1) コガネグモが以前と比べ少なくなっていると聞くが現状について問う。</p> <p>(2) くも合戦大会の継続は可能か問う。</p> <p>(3) 採集に行く町とは、現在ほどのような対応をしているか問う。</p>	市長 教育委員長
4. 神村 次郎	2. 循環型社会にむ けた取組みについて	<p>市環境基本条例が制定され、廃棄物やエネルギー等の適正な循環的利用を図り環境への負荷ができるかぎり低減される社会を構築しようとしている。</p> <p>クリーンセンターから発生するし尿・浄化槽汚泥と庭木等を剪定しチップ化した物等を利用した、堆肥化の事業は取組めないか。以下について問う。</p> <p>(1) 現在のクリーンセンターでのし尿・浄化槽汚泥の処理状況について問う。</p> <p>(2) シルバー人材センターでの庭木等の処理状況について問う。</p> <p>(3) 試験的に堆肥を作り分析結果が出ているが使用可能か問う。</p>	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
4. 神村 次郎	3. 市職員及び学校現場における労働安全衛生について	<p>(1) 市職員の労働安全衛生について 合併3年目をむかえる。総合計画の将来像の実現に向けて、職員はこれまで以上の多くの困難な課題を解決しなければならない。同時に行政改革もスタートするなかで効率的な行政運営も求められている。</p> <p>職場における職員の安全と健康を確保するとともに快適な職場環境の形成を促進することを目的に労働安全衛生法が定められている。このまちの市民サービスを支える職員の健康管理は重要である。以下について問う。</p>	市長
		<p>① 安全衛生委員会は、年に何回開催されているか問う。</p> <p>② 現在の職員の健康状態をどのように把握しているか問う。</p>	市長
		<p>(2) 学校現場における労働安全衛生について</p> <p>学校の小規模校化等が進行する中で、環境改善のための財政等は厳しい状況にある。</p> <p>児童・生徒に対する教育効果を左右する教育職員の健康状態等について、次のとおり問う。</p> <p>① 市内の学校現場の労働環境をどのように捉えているか問う。</p> <p>② 労働安全衛生法に基づく各学校の労働安全衛生委員会の設置状況と、年間の委員会の開催状況を問う。</p>	教育委員長

氏名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
		③ 委員会を設置したことで、どのような成果があがっているか問う。	
5. 笹井 義一	<p>1. 交通弱者対策について</p> <p>2. 街路森山線の整備計画と周辺踏切の改良について</p>	<p>農水省の「農林水産政策研究所」は、スーパーなどの生鮮食料品店が自宅から500m以上離れ、徒歩での買い物に不便を感じる「買い物弱者」の調査を行った。</p> <p>全国で910万人、鹿児島県では17万人で人口に占める割合は全国で4番目に高い9.7%と発表し、アクセスマップをネット上に掲載している。</p> <p>一方平成10年6月1日から75歳以上の高齢ドライバーには、免許更新時に「講習予備検査」(認知機能検査)が義務付けられ、21年からは70歳以上に引き下げられた。</p> <p>検査結果では、記憶力・判断力の低下、すこし低下と判断された方が30%を占めていると報道されている。</p> <p>近年の高齢者の老・老事故が増加している背景が、はっきり現れていると思われる。</p> <p>県警免許管理課の報告では、23年度に身体機能の低下等を理由に運転免許を自主返還した人は2,049人、うち65歳以上は2,006人と報告されている。</p> <p>免許を返還したくても、交通弱者になることを考えると踏ん切りがつかない。</p> <p>このような交通弱者への対策について、市長の考えを問う。</p> <p>街路森山線は、帖佐第一土地区画整理地区内から南国松原団地までの松原線に接続するもので、松原線の整備と合わせて、未整備延長は約300m程度と思われる。今後の整備計画について問</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>



氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
5. 笹井 義一		<p>う。</p> <p>(1) J R日豊本線以南の用地買収と家屋移転等ほどの程度進展しているか。</p> <p>(2) (1) についてどのような課題があるのか。</p> <p>(3) J R九州との踏切協議はどのようになっているか。</p> <p>(4) 森山線踏切の開設は、何年頃を見込んでいるか。</p> <p>(5) 始良駅南自治会など地域住民に対する課題と対策を示せ。</p> <p>(6) 地藏橋踏切の改良をどのように考えるか。</p> <p>(7) 山野踏切は、森山線踏切開設の条件として、J R九州から立体交差することが求められ、できない場合は廃止することが求められていると聞いた。どのように対処するのか。</p>	市長